

育 休 通 信

平成30年度5.6月号（5月1日発行）

1. 看護部の動き

木々の緑が目まぶしい季節となりました。今年は、温暖化の影響で桜も全国的に平年より早い開花となり、新採用者の入職時には満開の時期を過ぎ、花びらが散り始めていました。今年も142名という多くの新採用者を迎え、例年通り2日間のオリエンテーション後に、新卒者は「看護基礎技術研修」を受け、17日から各所属部署へ配置となりました。病棟では、先輩と一緒に真剣に患者さんに対応している新入職者を見かけました。不安と希望の入り混じった新入職者の表情から、頼もしい社会人の表情に変化していこうとしています。



看護部の体制も新しくなりました。看護部長に大柴幸子看護部長が就任されました。
大柴看護部長からのメッセージをお届けします。



育休中の皆様、いかがお過ごしですか？

気まぐれな天候の中、お変わりなくお過ごしでしょうか？

附属病院では新入職者の集合技術研修が終わり、新人たちが各部署に入ったところで、てんやわんやといったところです。

さて このたび 私こと 朝野看護部長の後任として自治医科大学附属病院看護部長に就任することになりました。甚だ微力ではございますが、附属病院ならびに看護部の発展に全力を尽くし皆様のご期待に添うよう努力いたす所存です。つきましては 何卒ご支援賜りますよう、謹んでお願い申し上げます

就任にあたって、看護実践のコンセプトとして「まもる、つなぐ、そばにいる看護」を実践したいと考えています。「まもる」はもちろん患者の皆様のいのち、暮らし、尊厳を守ること、「つなぐ」は患者の皆様と医療チームをつなぐこと、地域とつなぐ、生活とつなぐこと、「そばにいる」は常に患者、家族の皆様の視点を持ち、患者、家族の皆様の立場で考えること、そして実際に患者に寄り添うという意味が含まれています。

めざしたい看護部組織としては、1. 安全で質の高い看護を提供する看護部組織、2. バリアフリーの看護部組織、3. 看護職員がいきいきと働き、組織・チームとして力を発揮できる看護部組織、4. 病院経営に積極的に参画する看護部という大きくは4点を上げました。

その中でも3.の看護職員がいきいきと働き、組織・チームとして力を発揮できる看護部組織ということには力を入れていきたいと考えています。看護職員が専門職としてやりがいをもっていきいきと働けることが、患者・家族の皆様の満足につながる看護が提供できると考えます。スタッフ一人ひとりを大切に育成し、それぞれのスタッフの生活や人生の充実を支援すること、モチベーションを高めることに努めていきたいと考えています。

できる限り支援をしたいということにうそはありません。とはいえ、現在約200名を超える産休、育休者の方々がいらっしゃいます。単純にすべて皆様のご希望通りとはいかない現実もあります。附属病院の看護部として実践すべきこと、目指すべきことがあります。附属病院の看護の質を担保するためにご協力いただくこともあります。どちらかが我慢するというのではなくて、できればどちらも満足のいくようにすることが理想です。皆様と十分に意見交換をしながら、Win-Winの関係をつくっていきなすようにしたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

また、業務担当副部長として神田貴代看護副部長、教育担当として亀田美智子看護副部長の2名の看護副部長が新たに加わりました。総務担当は大海看護副部長、安全・情報・リニューアル担当の渡井看護副部長、そして人材確保担当の上野で、看護部を盛り上げていきたいと思っています。育休面接時には、それぞれの担当副部長が面接をさせていただきますので、宜しくおねがいします。

2. 倫理的な観点から子育てを考える Part2



【子育てと躰】

人生のスタートにある幼い子どもは、通常2歳ぐらいまでは自我が確立しておらず、社会というものを理解するほどには他人と自分との区別がついていない。すべてが自分を中心に回っていると感じており、して欲しいことを泣いて要求するのも、他人の物を取っても悪いと思わないのも、その年齢の子どもにとっては当然のことである。また、そのころの子どもは、すべての物が目新しく好奇心旺盛であるうえに、周りのことに関係なく自分のしたいことをするので、何にでも触ったりいじったりする。この時期に躰のつもりで「こうしなさい」と教えようとしても、あまり効果はなく、むしろ過剰に「ダメ」と言って子どもの行動を制限することは、子どもにストレスを与えるとともに、その感性を養うのに大切な好奇心という芽を摘んでしまう。

このような幼い子どもへの対応は、日本の子育ての原点に戻り、ただひたすら抱き締めて「自分が愛されているという心」を育んであげることが大切である。当然、「抱き締めるだけで躰はしなくてもいいのか？」という質問が出るが、ある年齢、通常2歳を過ぎたころから、みんなと一緒に生きていくことの大切さを教えなければならない。それが躰なのである。

育児のなかで、他人と協調していくためのルールを子どもに身につけさせることが躰である。躰は、軍隊や運動部における厳しい訓練や、学校で世のなかの仕組みや考え方を教える教育とは異なり、毎日の生活の中で自然に覚えていく学習なのである。

躰という言葉は、和裁の「仕付け」に由来するといわれる。「仕付け」は、縫い目を正しく整えるために仮に縫い付けをしておくことで、細かく縫い上げることではない。躰は、挨拶の時の言葉使いやお辞儀の仕方などの細かいことを教えるのではなく、社会のなかで他人と共に生きる基本的な態度、例えば、「目上の人を敬い、挨拶をする」や「他人に迷惑をかけない」などであり、それらが自然に身につくように育てることが躰である。躰という漢字は、折り目正しい習性が身についた人の立ち居振る舞いは美しい、ということから生まれたものである。

【仁志田博司 : 倫理的な観点から子育てを考える
小児看護 2018年2月より抜粋】

看護部行事 (5月・6月)

5月 9日	看護部運営部会議
5月12日	栃木県看護大会
5月14日	創立記念日
5月17日	永年勤続表彰
5月19日	ふれあい看護体験
5月27日	病院見学会
5月30日	インターンシップ
5月31日	看護部運営部会議
6月 2日	採用試験
6月 4日	看護学部就職説明会
6月 9日	採用試験
6月12日	日本看護協会総会
6月13日	全国職能別交流集会
6月23日	栃木県看護協会総会
6月29日	インターンシップ
6月30日	採用面接(自治看護学部生)



今月の資料

- ・「IoT・ビッグデータ・・・AI・ロボットの活用が看護にどう影響するか」 看護Vol.70 No5 2018.4
- ・赤ちゃんの不思議 小児看護 2018年 4月号
- ・大人が読む絵本 おさな子が「おにいちゃん」になるとき 看護管理 V0127 NO.11 2017

※育児休業者職場復帰プログラム在宅通信レポートは、育休面接時に面接を担当した看護副部長に、必ず提出してください。



育 休 通 信

自治医科大学附属病院看護部

4月に新入職者を迎えて、オリエンテーションや基礎技術研修を行なったのがついこの間だと思っていましたが、早いもので3ヶ月が経ちました。現在は、重症救急部門研修や他部門研修などそれぞれのスケジュールに沿って研修をしています。全員、継続して頑張ってもらいたいです。

梅雨の時期というのに、この1週間は真夏のような厳しい暑さで、熱中症指数の警戒が続いています。本格的に暑くなる前のこの時期の暑さは、熱中症の危険がより高くなるそうです。現在、4年に一度のFIFAワールドカップが6月14日から7月15日までロシアで開催されています。憂鬱な気分を解消してくれるように、日本のサッカーが熱い戦いをしています。寝不足も熱中症になりやすいひとつの要因です。サッカーの応援で寝不足にならないようにしましょう。体調管理にくれぐれも注意してください。

セラピードッグをご存知ですか？

6月13日に子ども医療センターに、セラピードッグ達が来てくれました。セラピードッグには様々な不思議な力があり、人々を癒してくれます。そのため、生きる気力を与え続けてくれるための多くの活動をしています。セラピードッグ達は、みんなの前で得意なことを披露した後に、各個室を回ってくれました。最初は少し怖がっていた子ども達も次第に傍により、触れあい、笑顔で喜ぶ姿がありました。

短い時間でしたが、こども医療センター全体に、暖かな癒しの空間がうまれました。

後ろ歩きが得意
らんちゃんダンスが得意
はるちゃんジャンプが得意
ファンくん

「基本的生活習慣」を身につけるために

脳科学によると、自発的に育むことができる行為と、自発的には育むことができない行為があるという。人間には扉を開けて出ていくという行為は生得的に脳に組み込まれているが、外に出た後に扉を閉めるという行為は、脳にとって不自然な行為なので、自発的にできるように組み込まれていないのである。すなわち、開けることは自発的にできるが、閉めるという行為は学習しなければ身につかないことらしい。自然に身につくことと、学習しなければできないことがあるというのである。そこで、さまざまな生活に必要な行為を身につけさせたいと思ったら、誰かが身につけられるように教えなければならないということになる。

基本的生活習慣とは一般的には、子どもが心身ともに健康に育つための生活の基盤になるものとして、食事・睡眠・排泄・清潔・衣服の着脱をさしている。

- ・排泄は自分でトイレに行き始末ができること。
- ・衣服の着脱とは自分で衣服の脱ぎ着ができること。
- ・清潔とは手洗い、入浴などで身の回りを清潔にすること。
- ・睡眠は早寝早起きをして十分な睡眠をとること。
- ・食事は栄養の偏りなく自分で食べられること。

まずは排泄の話から始めようと思う。トイレで用を足すことができない人が問題になっていることは聞いたことがない。しかしながら、トイレトレーニングは子育てにおいては重要課題である。幼稚園への入園条件に「おむつがとれていること」を明記している幼稚園も多く、焦る親は多い。

トイレトレーニングを始めるには、いくつかの条件がある。歩行やお座りがしっかりできるようになっていること、膀胱のサイズが大きくなっておしっこの間隔がある程度あくようになっている、言葉で意思疎通ができるようになっている、などである。これらの条件が揃わないでトレーニングを始めるとなかなか成功せず、親子でいらいらすることになる。個人差があり、気長に取り組めば、ある時期におむつは外れるのであることではない。

しかし、おむつが外れることによる成長は著しく、赤ちゃんから子どもになったという大きな自信となる出来事である。それゆえに、ある年齢までにおむつを外すことが望ましいといわれるのだろう。

育英幼稚園園長 河村 真理子

「児童心理2018年6月号 P28～30」より



読み物

・進化するチーム医療への旅
看護管理 vol.28 no.06 2018

・ないない思考からあるある
思考へ

看護 2018. 7

・おとなが読む絵本

「奇想天外な絵本の神話的な
リアリティ」

看護管理 vol.28 no.06 2018

【レポート提出 について】

育休通信で配付している読み物からひとつを選んでレポートを記入し、**育休面接の時には必ず持参し提出してください。**

7月の予定

- 1日看護職採用試験
- 5日看護部運営部会議
- 10日看護師長連絡会議
- 14日七夕コンサート
- 21日第2回ふれあい看護体験
- 26日インターンシップ
- 27日インターンシップ・病院見学会
- 28日看護職採用面接

8月の予定

- 1日インターンシップ
- 2日看護部運営部会議
インターンシップ・病院見学会
- 9・23日看護職採用試験
- 22日合同就職説明会（御茶ノ水）
- 26日固定チームナースング関東地方会
- 29日インターンシップ・病院見学会
- 31日インターンシップ





育

休

通

信



自治医科大学附属病院看護部

季節は秋に移り変わろうとしています、まだまだ暑い日が続いています。今年の夏は、全国的に猛暑が続き、熊谷では日本歴代最高となる41.1℃の暑さを記録、熱中症による救急搬送の数も全国で増加しました。また、温暖化の影響か7月・8月に発生した台風により土砂崩れや河川の氾濫などの災害が起こり、異常気象による農作物への影響もでています。9月1日は**防災の日**です。「今後は、どこで災害が起こってもおかしくない」という気象庁からのコメントを聞くと、災害への備えはよりいっそう必要になると感じます。

8月23日と24日は、新館南棟の内覧会が行なわれました。建物の内部はほぼ完成しており、一部、医療機器や備品の搬入作業を行なっているところもありました。1階は救命救急センターで9月4日に移転、2階は集中治療部で9月7日に移転です。3階は血管内治療部と手術室、5階はラウンジです。現在フルオープンに向けて、急ピッチで準備中です。

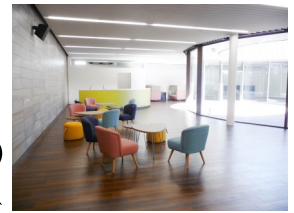
ER



ICU



ラウンジ



人のかかわりを生み出す初歩的な習慣づくり



親とのかかわりと習慣づくり 【親との会話は人間形成の第一歩】

私たちは生を受け、生まれてから様々な人と出会い、かかわりを持ち人間関係を日々少しずつ広げている。その一番初めに会う人が両親である。そのかかわりは、親に授乳をしてもらい、オムツを交換してもらうなどの身の回りの世話であり、親から子どもへの一方的なかかわりだけのように見られるが、乳幼児は授乳中に母親を見て微笑んだり、泣くことによって嫌な気持ちを表し、だんだんと親の表情や発音を真似しようとする姿が見られるようになる。その中で親子の信頼関係を築くようになる。こうした親と子のコミュニケーションは、人のかかわりを生み出す第一歩となる。

次に大切な習慣は、親の読み聞かせである。親が選んだ絵本をまだ文字が読めない子どもに読んで聞かせることは、挨拶と同じように「生まれてきてくれてありがとう」という気持ちをこめることであり、親は宝物を抱えるようにして読み聞かせをする。赤ちゃんは歩き方を誰かから教わるのではなく、生得的に備わっているが、言葉は親ができる限り手助けしないと育たない。身体は自然に成長するが、言葉の習慣は、大人のかかわりを必要とし、成長していくうえで大切な思考力の元になる言葉を身につけるには親のできる限りの手助けが必要である。

また、絵本の読み聞かせをすることにより絵本を通して親と子どもが心を通い合わせて楽しさや喜びを感じ合う「共感体験」や、親の膝の上で絵本を読んでいれば体の温もりを感じ優しく語りかけてもらう「愛情体験」をし、愛されているということを感じながら実感できる。そして、これらを小さい頃から積み重ねることで言葉を獲得し、将来に向けて豊かな人間関係を育む基礎になっている。

親とのかかわりを考える上で、絵本の読み聞かせは今も昔も変わらず大変重要なコミュニケーションであり、子育ての喜びを実感できる時間の一つでもある。

《出展》 福島学院大学非常勤講師 大高 志芳
児童心理2018年 6月号 67-68



9月・10月の予定

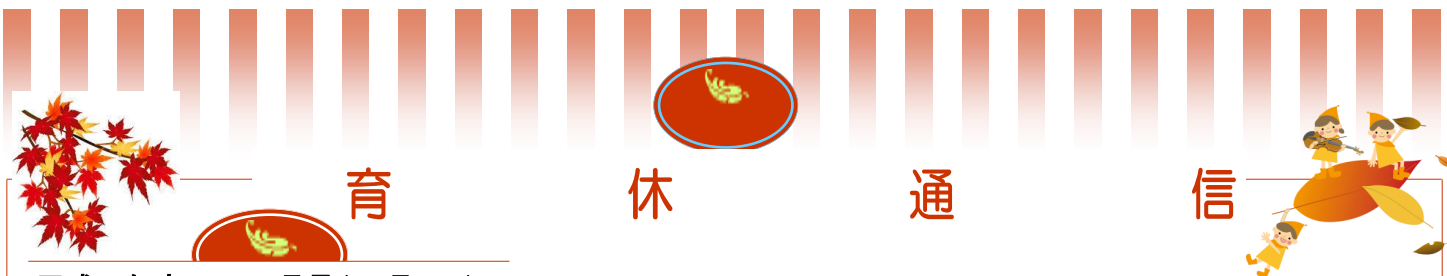
- 9月6日・10月4日 看護部運営部会議
- 9月10日 安全・感染講演会
- 9月14日・10月12日 看護部連絡会議
- 9月21日 働き方を考えるセミナー
『イクメン・イクボス・ことはじめ』
石蔵 文信 先生
- 9月28日・10月26日
ブロック会・看護部連絡会議
- 9月29日 院内看護研究発表会
- 10月15日 医療安全講習会
- 10月20日 秋のコンサート
- 10月21日 国試対策講座

今月の読み物



- ・看護師・家族が病気になって
「初めての胃内視鏡検査で味わった気持ちいいケア」
看護実践の科学 2018年8月
- ・癒しの環境
「ホリスティックナーシング」
看護展望 2018年8月
- ・子どものストレスとコーピング
「健康な子ども」のストレスとコーピング
小児看護 2018年7月





育 休 通 信

平成30年度 11・12月号(11月1日)

11月は秋の収穫を終えて冬を迎える準備をする時期です。毎年11月7日頃が立冬の日(今年は11月7日)で、その日から約2週間が立冬の時期です。秋から冬に季節が変わり寒い日が増えますので、軽いコートやジャケットが必要になりますね。

病院でも秋は、患者さん御家族のためのイベントが多く行なわれます。子ども医療センターでは、9月に大友剛ショー(マジックとミュージック)が行なわれ、楽しいひと時を過ごしました。クリクラウンやドナルドアピアランスも来ていただき、子どもたちに元気を届けてくれました。また、10月20日(土曜日)に本館の検査待合室で、恒例の「秋のコンサート」が開催されました。今年は、歌手の中里亜美さんにお越しいただき、「いい日旅立ち」から「時の流れに身をまかせ」など懐かしい昭和の歌謡曲を中心に聞かせていただきました。患者さんも一緒に口ずさみながら聞いており、とても楽しく癒されたひと時でした。

中里亜美さん (vocal)



検診で「虫歯」親の過半放置 (H30 .6.25 毎日くらしナビ面より引用)

学校の歯科検診で虫歯が見つかった子どものうち過半数が歯医者で治療をしておらず、虫歯が10本以上ある「口腔崩壊」の子どもがいる学校は3割を超えていたとの調査報告がまとまった。

●誤解、無関心多く

全国保険医団体連合会が、小中高校と特別支援学校を対象に調査した。回答があった学校の児童・生徒数は計約147万人で、初の大規模調査となる。

検診時期は都府県により異なるが、2012～17年度のうちの1年間。今年4月時点の集計では、小学校(21都府県)で「要治療」と診断されながら、歯医者を受診しなかった子どもは52.1%いた。中学校(21都府県)ではさらに状況が悪化し、未受診の生徒は66.6%に上った。高校(3府県)は84.1%、特別支援学校(5県)は55.8%。さらに、「口腔崩壊」している子どもがいた小学校は39.7%▽中学校は32.7%▽高校は50.3%▽特別支援学校は45.1%にも及んだ。

子どもと接する機会が多い養護教諭に複数回答で未受診の理由を尋ねたところ、「乳歯の虫歯は生え変わるから治療しなくてもいい」と誤解している親や、子どもの健康に無関心で歯医者に連れていけない親がいたという。また、長時間労働で仕事が休めず受診につながらなかったり、受診費用を払えず受診をためらったりする家庭もあった。

「乳歯全部が虫歯で、給食はハサミなどで細かく切って提供していた」「奥歯が溶けて無いため、よくかんで食べることができない児童が3、4人いる」「部活動や習い事により、歯科治療の時間を作ることが難しい生徒がいる」。全国保険医団体連合会には、養護教諭から数多くの事例が報告された。連合会は今後、子どもたちの口の中の健康を守るためにどのような取り組みが必要かを検討していく。

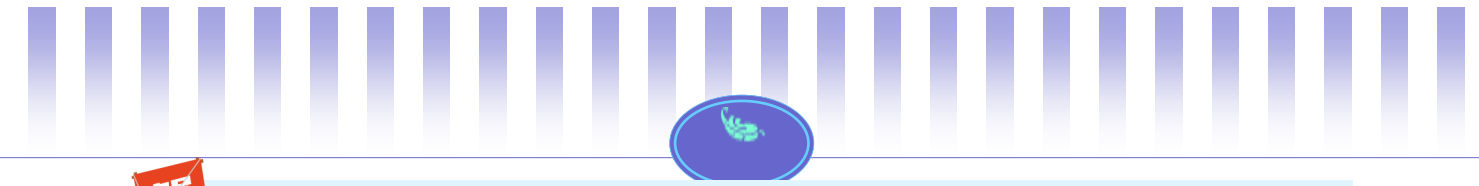
今月の読み物

- ・進化するチーム医療への旅
今求められるレジリエンスとは？
看護管理 vol.28 2018
- ・子育てウオーサオー
小児看護 2018年10月
- ・子どもエナジーステーション
小児看護 2018年9月



看護部の予定

- 11月1日 看護部運営部会議
- 11月8日 看護部連絡会議
- 11月9日 小児科医の話(あいりす)
- 11月17日 看護部交流会
- 11月22日 ブロック会
- 11月29日 病院講演会
- 12月6日 看護部運営部会議
- 12月11日 看護部連絡会議
- 12月15日 クリスマスコンサート
- 12月21日 ブロック会



育 休 通 信



平成30年度1・2月号（平成30年12月25日発行）



病院の動き

2018年も残すところ数日となりました。年齢を重ねるとともに、月日の経過が早く感じられ、今年も気がつくと、年の瀬です。

看護部では、看護職員の交流をはかり、親睦を深める目的で看護部交流会を11月17日（土）に行ないました。今年はミニ運動会で、看護職員約200人が参加しました。全部署混合の5グループに分かれ、3人4脚、ボール送り、お玉でボールリレー、綱引きの4種目で競い合いました。応援にも熱が入り、とても盛り上がりました。

恒例のクリスマスコンサートが、12月15日（土）に行なわれました。出演者は、「自治医科大学管弦楽団」と地域で活動している「ソシラスクラリネットアンサンブル」というグループでした。クリスマスソングを中心に演奏が行なわれ、多くの患者さん・ご家族の方に楽しんでいただきました。

2019年の干支は「亥（いのしし）」です。「亥」とされる動物の「猪」の肉には万病を予防する力があるとされており、亥年には「無病息災」の意味がある年といわれています。さらに、猪の猪突猛進な性質から、勇気と冒険の象徴ともされています。様々な言い伝えがありますが、公私共に充実した年にしたいものです。



カフェイン過剰摂取注意（読売新聞 社会保障面 H30.11.14より抜粋）

コーヒーやお茶などに含まれるカフェインは、眠気覚ましや疲労感の軽減に効果的とされる。ただし、子どもが摂取すると悪影響を受けるおそれもあり、注意が必要だ。「子どもは大人よりカフェインに対する感受性が高く、吸収したカフェインを体内で分解するのに時間がかかります。大人と同量のカフェインを子どもが摂取してしまっていることも少なくありません」。東京医療保健大の神田裕子准教授はこう指摘する。カフェインによって作業効率が上がったとする研究がある一方、過剰に摂取すると、中枢神経系が刺激されて、めまいや心拍数の増加、震え、不眠症などの健康被害をもたらすこともある。「受験シーズンが迫るこの時期、眠気覚ましにコーヒーを飲もうとする子どもも増えるでしょう。保護者はお子さんが飲む物に気を配ってください」と神田准教授。

予防医療コンサルタントの細川モモさんは「冷蔵庫にどんな飲み物を常備しているか、どれくらいの量を飲むかなどを、保護者と子どもが把握しておくことでカフェインの過剰摂取や悪影響を防げます。家族全員で『カフェイン・マネジメント』の意識を持ちましょう」と呼びかける。



「カフェインの科学」の著者で医学博士の栗原久さんによると、子ども時代の生活スタイルは、成人しても受け継がれやすい。カフェインで脳が興奮して気分や体調が変化したという記憶は、大人になった時に脳に作用する薬物（向精神薬）への依存を強める可能性がある。1日に摂取するカフェイン量が、体重1キログラム当たり5ミリグラム以下であれば、不眠を除いて心身への副作用はほとんど現れないが、小さな子どもは極力、カフェイン摂取を避けたほうがよいという。「子どもにはカフェインによる作業効率の向上などは不要。疲れは睡眠で解消すべきです」と栗原さんは強調する。

これから風邪やインフルエンザが流行する時期を迎える。「子どもの心と体を守る『冷えとり』養生」を著した「芝大門いまづクリニック」（東京）の今津嘉宏院長は、風邪やインフルエンザの予防には良質な睡眠で免疫力を高めることが大切と指摘。「子どもが床に就く10分ほど前に白湯やカフェインを含まないブレンド茶を与え、体を温めてから寝付かせるのが効果的」とすすめている。

今月の資料：

- ・小児看護 vol. 42. 2019
子どもの世界がみえてくる ―発達心理学の視点から―
- ・看護技術 vol. 64. 2018
意外に知られていない高齢者の事故
- ・看護実践の科学 vol. 44. 2019
看護の証をつかむナース “変化の中で”



カルテの閲覧は、業務に関連したもののみです。自分や家族のカルテを見ることも不正閲覧にあたります。注意してください！

看護部行事（1・2月）



1月 4日	学長・病院長の新年の挨拶	2月 2日	心身医学研究会
1月 7日	新春交歓会	2月 7日	看護部運営部会議
1月10日	看護部運営部会議	2月 8日	看護部連絡会議
1月11日	看護部連絡会議	2月21日	病院長表彰
1月23日	感染対策講演会	2月28日	システムダウン時訓練
1月31日	立入り検査		（外来）

育 休 通 信

平成31年3・4月号（3月1日発行）

1. 看護部の動き

寒さのなかにも、少しずつ春の暖かい日差しが感じられるようになりました。先日、散歩の途中に満開に咲いている梅の木を見つけ、春が近づいていると実感しました。3月は、卒業式、人事異動など別れの季節でもありますので、部署では今年度の総まとめとして大忙しです。

2月2日（土）は、地域医療情報センター中講堂で「第41回栃木県心身医学研究会」が開かれました。8演題中、当院看護部から4演題を発表しました。特別講演では、東京都立駒込病院緩和ケア科の栗原幸江先生による「ケアする人のためのケア」の講演がありました。県内から123名という多くの参加者があり、発表内容に関しての活発な意見交換がされました。また、栗原先生の講演の中でストレスマネジメントの方法を聞くことができ、とても有意義な研究会になりました。今回の通信に抄録と講演の資料を同封しましたので、是非読んでみてください。

【病院長賞】

平成30年度の病院長賞の授賞式が、2月21日（木）に地域医療情報研修センター大講堂で行なわれ、医師13名、看護師7名、コメディカル8名、事務5名が受賞しました。選ばれた理由をお聞きすると、何れも、同僚・後輩・他職種からの信頼が厚く、モデルとなるべく素晴らしい方々でした。

4月に入職予定の看護職は、133名（内 既卒者6名）です。3月22日（金）に国家試験の合格発表がありますが、全員迎え入れられることを願っています。

幼年期の甘えと遊び：今、日本の子どもたちに必要なこと

【渡辺 久子：シンポジウム3 第27回日本小児科医会総合フォーラムから 日小医会報 NO.52 より抜粋】
遊びと甘えは健やかな心の両輪

団塊の世代の筆者らは、子ども時代に日がとっぷり暮れるまで遊びまくった。それが今日にいたる活力の源である。今、日本の子どもたちは、どれほど満足いく遊びや甘えの体験をしているだろうか？子ども時代の甘えと遊びは、健やかな心の両輪。子どもはその日その時の不安や緊張を誰かに受けとめてもらえると、すっきりした自分にもどれる。母親がさりげなくほわっと子どもを抱きしめるだけで、子どもは不思議に、いらだちや心細さが消えていく。あるがままの気持ちを安心して出し切り、その時々に必要な甘えを十分に満たされた子どもは、自己肯定感の高い健やかな自立を遂げていく。

幼い子ほど、間主観性のアンテナで親の本音を見抜き、親が人目や世間体を気にしすぎると心を閉ざす。私の出会う子どもらは一様に、親がびりびりして、家庭が楽しくないと言う。君は君、あなたはあなたのままでいい、自分から思い切って本音を親に言ってみようと言おうと話し合おうと、子どもらは親に語り始め、親の変化と成熟を促していく。子どもらしい遊びと甘えをしっかりととりもどすと、どの子も明るくなっていく。

終わりに

「子どもの時に 心の池が満たされると 生涯潤れることのない 泉になるでしょう」¹⁾。写真家篠木眞のこの言葉のように、子ども時代の甘えと遊びは、自己と人への信頼を培い、その子が人生の困難を前向きに乗り越えていける土台を造る。子どもがもっと瞳を輝かせて生きることのできる日本社会に変えていくために、小児科医の果たす役割は大きい。

文献 1) 篠木 眞：写真集「子どもは、、、」現代書館

今月の資料

・子どもの世界が見えてくる【離乳食をめぐるやりとり】

小児看護 Vol. 42 No. 2 2019

・「敏感」にもほどがある

小児看護 Vol. 42 No. 2 2019



看護部行事（3月・4月）

3月1日 自治医科大学卒業式

3月6日、13日、19日、27日

インターンシップ+病院見学会

3月7日、14日、20日、26日

インターンシップ

3月8日 看護部連絡会議

3月22日 ブロック会議・看護部連絡会議

3月11日～15日

固定チームナースング成果発表会

3月22日 保・助・看 国家試験合格発表

4月1日 辞令交付

新採用者オリエンテーション
歓迎会

4月12日 看護部連絡会議

4月26日 ブロック会議・看護部連絡会議

お願い：子ども研究員を募集しています！ご協力お願いします。
（同封した資料をご覧ください）